憤怒の使い魔

うおう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
憤怒の使い魔

【Ｎコード】
Ｎ５３０２Ｚ

【作者名】
うおう

【あらすじ】
憤怒の能力を持った主人公がゼロの使い魔の世界で大暴れする予定の二次創作小説です。

プロローグ（前書き）

思いつきで書きました。
駄文ですが感想をもらえると嬉しいです。

プロローグ

単刀直入に言おう俺は転生者だ。

前世で神の手違いで殺された俺はテンプレ的に能力を貰いゼロの使い魔という小説の中に転生した。

ここまではみなさん聞いたことがある展開だ。

だが、しかし！！転生したのは平民だった！！！！

ありえねーだろ！！！普通貴族だろ！！そこは！！！！！

貴族の長男とかになって内政チートしてみたり！！！！オリジナル魔法作ったり！！！！

はぁ、一応平民メイジだから、魔法使えるけど親父はいねぇし母さんはつい最近病気で死んじまったし。

５才！！５才！！！で親無しの孤児だよ！！！！

どうしてこうなった・・・・

はぁまだ能力あるからいいほうか・・・・・

後に、憤怒のＸＡＮＸＵＳ（ザンザス）と呼ばれるものの物語が始まった。

あ～腹減った～～～

狩りと修行とオーク狩り

むしゃむしゃ・・・不味い。

やはりネズミの肉は旨くないか。

現在俺は食事中だ。

食べているものは今朝見つけたネズミの肉だ。

もぐもぐゴクンっと完食！！！

さて腹も膨れたし情報を整理しよう・・・

現在地・ゲルマニア南部の森

持ち物・ナイフ（家の財産）

ボロイ服三着

使い込まれたワンド（父親の忘れ物）

干し肉（ネズミ）

ボンゴレリング・大空（転生特典）

ｎｅｗヴァリアーリング・大空（転生特典）
憤怒のリング・嵐（転生特典）
二丁拳銃・死ぬ気弾（転生特典）
匣八個（ボックス）（転生特典）

所持金　１０エキュー

俺の転生特典は家庭教師ヒットマンリボーンのキャラクター、ＸＡＮＺＵＳの力の憤怒の炎

憤怒の炎は死ぬ気の炎の亜種のような物で圧倒的な破壊力を持っている。

それでもって自由自在に使えるので戦闘では役に立つだろう。

だがそのおかげで俺は火メイジである。

他にはブラッド・オブ・ボンゴレの超直感だ。これは役に立つ、

なぜなら何処に敵が居てもなんとなく分かるからだ。

後は鋼の錬金術師に出てくるホムンクルス憤怒（ラース）の能力究極の眼だ。

だがウロボロスの紋章がない、あったら異端審問会だからな。

これはとても良い、風竜の速さも見切れるぐらいだ。

あと追加オプションとして精霊が見えた。

スゲェ、フヨフヨしている、癒される。

あとボンゴレリングとｎｅｗヴァリアーリングと憤怒のリングとＸＡＮＸＵＳが使っている、

二丁拳銃と匣（ボックス）を八個を転生特典として貰った。

後ついでに精神力と回復力を大目にしてもらい、成長限界をなくしてもらった。

ボンゴレリングとｎｅｗヴァリアーリングは大空属性で、

憤怒のリングは嵐属性だ。

二丁拳銃はメンテナンスフリーでいくら撃っても死ぬ気弾が減らないようになってある。

匣（ボックス）は八個で、大空属性が四個、嵐属性が四個になっている。

そして俺の外見は丸っきりＸＡＮＸＵＳだ！！！眉間にしわ寄せまくっているよ！！

睨むと威圧感がヤバいよ！！！前に本気で睨んだら竜騎士の竜が怯えたよ！！！！

あと表情筋が硬い！！笑った時にはいい年の大人がマジ震えてた！！！

そしてうまくしゃべれない！！なぜだって？！！ＸＡＮＸＵＳだからさ！！！

まぁ・・だいたいこんなものだ、後肝心の魔法はそんなに悪くはない。

五歳にして火のラインメイジで、風と水はドットメイジだ。

土は全く使えない。ゴーレムが使えない（涙）。

杖ではなく三つのリングと契約している。

コモンマジックはだいたい使える、フライはあまり使えないが・・・

まぁこんな物だ、まだ五歳だからこんな物だがこれからドンドン修行していけば強くなるはずだ！！

よし！！今から修行だ！！！

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

ーーーーーー修行風景ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

「いくぜ、ファイアボール！！！からのフレイムボール！！！」

「ファイアボール！！！二十連打ぁああああああ！！！！！！！
！」

「フレイムボール！！！三十連打ぁあああああああああああああ！
！！！！！！！！！！！！！！」

「そうだ！！憤怒の炎を足したら・・・今度は憤怒の炎をプラスし
てみよう」

「ファイアラース！！！！」

「ギャアアア！！！炎が！！燃え移った！！！！！」

「コンデンゼイション！！！コンデンセイション！！！！！・・・
ふぅやっと収まった。」

「あっ火傷！！ヒーリング！！ヒーリング！！！！」

「今度は風だ！！ウインド！！ウインド！！エアハンマー！！！！」

「うおおおお零地点突破‘改‘！！！！」

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

三年後

結果　火　ラインからトライアングルへ
　　水　ドットからラインへ
　　土　まるで反応がないようだ・・・
　　風　ドットからラインへ

使える魔法　火　ファイアボール　連射可能、だが曲げること
は出来ない。
　火火　フレイムボール　二十個ぐらいしか創れない。
　火火　ファイアウォール　高さ四メートル幅三メート
ルぐらいの壁
　火火火　フレイムブラスト　腕から火炎放射、威力は高
いがあまり撃てない
　火火風　フレイムウインド　熱風、かなり熱い
　火火水　ホットスチーム　熱い蒸気を出す、逃走用
　水　コンデンセイション　意外と多く水が集まる
　水水　ヒーリング　深い傷でも治る
　風　ウインド　突風を起こせる、あまり威
力は無い
　風風　エアハンマー　オーク鬼も吹き飛ばせる。
　風風　エアスピアー　岩に穴が開く。

能力　憤怒の炎　銃に炎を込めることが出来るようになった。零地点突破‘改’を習得した。
超直感　風の空間把握と合わさりより正確になった。
究極の眼　見切りがさらに鋭くなった、精霊も大目にみえてきた。
リング　どちらのリングにも炎が出せるようになった。
匣　まだ使ってない。

混合技　ファイアラース　憤怒の炎を混ぜて撃ったファイアボール。
着弾するととてつもない爆発が起きる
消費する魔力はファイアボールと同じ

フレイムラース　ファイアラースの強化版
さらに爆発が強くなる
消費する魔力はフレイムボールと同じ

こんな物さ。三年でこれくらいになれば良い方だろう。

精神力も三年前と比べて数十倍に増えた、成長強化もあったのだろうか。

それに比例して回復力も上がった、一時間寝れば精神力が半分は回復する程度に。

あと詠唱時間も大幅に削った、今はトライアングルスペルを二秒で詠唱可能だ。

俺は今からオーク鬼を殺しに行く、殺しになれる特訓だ。
－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－
－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－
－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

オーク鬼達は悠然と昼寝をしていた。
その顔には安らぎが満ちていた。
だがその時、オーク鬼達に向かって魔法が撃たれた。

「フレイムラース」

ドカン！！！と大爆発を起こしオーク鬼の半分以上が消し飛び、
消し飛ばなかった物は、大小の火傷を負った。
運よく火傷を負わなかった一部のオーク鬼達は自分たちに向かって
魔法を撃ったものにこん棒で攻撃を仕掛けた。

「プギィィイイイィィイ！！！！！！！！！」

だがオーク鬼たちの攻撃は当たらなかった。
魔法を撃ったものは十はいるであろうオーク鬼達の攻撃を全て避け
次の攻撃に移ろうとしていた。

「消し飛べ怒りの暴発（スコッピオ・ディーラ）」

ズガガガガガガガガガガガガン！！！！！！！！

魔法を撃った者の拳銃から強力な憤怒の炎が連射され超極太レーザーとなりオーク鬼に襲いかかった。
レーザーは周囲を薙ぎ払いその線上にいたオーク鬼達は断末魔の声も出ずこの世から消え去った。
その後この周辺の森からオーク鬼が消えた。

狩りと修行とオーク狩り（後書き）

主人公が使う魔法を募集しています。（土は無理です）

浮遊島アリビオンへレッツゴ～

前回オーク鬼の群れを消した俺はその後帰った。

そして俺は家の荷物を纏めて生まれ育った村を後にした。

それまでは修行のため家にいたがオーク鬼を倒したのでもうここで学ぶことはないと思い、

俺は村を出て行った。

現在俺はアルビオンに向かうフネのあるラ・ロシュールに居る。

俺はアルビオンに住む予定だ。

アルビオンは原作に近くなっていかないとイベントがあまりない、なので目立たない。

そしてあそこは地上より遥かに高い場所なので空気も薄く修行するのにはもってこいの場所だ。

目立たずに強くなるにはぴったりの場所だ。

え？なぜ目立ちたくないかだって？それはごたごたに巻き来れないようにするためだ。

ごたごたとは原作イベントの事である、

なぜ他の転生者はあのような面倒くさいことをわざわざやってるの

だろうか？

激しく疑問に思う。

どうせ女の子にもてようとするためにそのようなことをするのだろう。

まったく破廉恥極まりない。

さて話は逸れたが俺は今八歳だ。

原作開始つまり平賀才人がルイズなんちゃらかんちゃらにこのハルゲニアに召喚されるまで、

あと十六年ある、つまり俺はこの期間を利用し誰にも邪魔をされずに悠々自適に過ごす！！

これが俺の二度目の人生目標である。

俺の今の所持金は３エキューぽっちしかない、なのでアルビオン行きのフネには乗れない。

だから俺はしばらくこの町で修行をしつつ金を貯める予定だ。

目標は１００エキュー、頑張って溜めるか。

――――――――――――――――――――――――――――――

――――――修行風景――――――――――――――――――――

――――――――――――――――――――

さて今日はＸＡＮＸＵＳの技の特訓でもやるか。

今のところは怒り（スコッピオ・ディーラ）の暴発しか使えないからな、他の技を使えるようにしないとな。

たしか炎の鉄槌（マルテーロ・ディ・フィアンマ）はもっと連射の速さを上げないとダメっぽいからな。

良し試しにやってみるか。

『炎の鉄槌（マルテーロ・ディ・フィアンマ）』

ズガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガン

！！！！！！！！！！！

・・・まだダメだな、もっと連射の速度を早くしないと上手くいかないな。

いまだに扇のような形で撃てないしな。

それじゃ今度は炎の蕾（ボッチョーロ・ディ・フィアンマ）かな。

この技は高速飛行ができないと無理な技だからね、やってみようか。

確か銃口を地面に向けてドーン・・・ってギャアアアアアアアアアアア！！！！！！！！！！

速いぃいいいいいいい！！！！！！！！ギャアアアアアアアア！！！！！！！！！

風圧がぁあああああああ！！！！！！！ウゴオゴオゴオゴオオオッゴォオオオオ！！！！！！！！

・・・・・・・あ～～～死ぬかと思った・・・・・・

結果は高速飛行むずい、よく皆さんあんな速いのによくあれほどまでに動けるのかな？

やはり修行あるのみか、頑張るか。

え？決別の一撃（コルポ・ダッディオ）はやらないのかって？

無理だしあんな危険なもの前に五歳の時にやってみたけど、威力が

半端なかった。

森の面積が六分の一ぐらい吹っ飛んだんだよ、幸い誰も見てなかったけどさぁ。

さて次は魔法の修行でもするかな。

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

約五か月間俺は金を稼ぎまくった。

水の秘薬を作ったり、オーク鬼を殲滅したり、ミノタウロスを討伐したり、

火竜を撃退したり、偉い貴族さんの護衛をしたり、とにかくいろいろなことをやった。

そしてようやく１００エキュー貯まった。

ついでに火がトライアングルの上、風がトライアングル、水がラインの上、になった。

これでようやくアルビオンへ行ける！！！

そして俺は今現在アルビオン行きのフネに乗っている。

ここからの景色はかなり良い眺めだ、うん絶景、絶景。

あれ？右からフネが近づいてくる？補給船？

そう思いつつ周りを見回したらみんな慌てて叫んでいた。

「空賊だ！！！」「戦闘配置に付け！！」「大砲ぅう用意ぃい！！！！」

・
・・
・・・
・・・・
・・・・・
・・・・・・
・・・・・・・
・・・・・・・・オワタＯｒｚ

なぜよりにも寄って俺が乗っている時にぃいいいい！！！！！！！！

あいつ等カッッッッッッッッ消すっっっっっ！！！！！！！！！

と言いそうになったが貴族様も乗ってるし、

なんか３００歳以上生きていそうな爺が居るので、大丈夫かな思った、だがしかし！！！

その貴族様のランクが全員ドット！！！！ドットメイジだ、フザケルナ！！！！！！

そして爺はぎっくり腰でダウンかよ！！！！ツカエネーヨ！！！！！

ドットって！！ドットって何！！！！貴族なんだからライン以上はイケヨ！！

俺はトライアングルだぞ！！！お前ら平民よりヨワイノカヨ！！！！！

こうなら自棄じゃあああああ！！！！！

銃声（？）がし、超極太のレーザーが先に行った奴らを消し炭にしたのだ。

それが原因で空賊たちは混乱した、なんせその先遣隊にはトライアングルのメイジがいたからだ。

そして混乱している空賊たちに向こうのフネから魔法が撃たれた。

それは着弾すると凄まじい爆発が起こり次々と空賊たちは炎に焼かれていった。

しかもそれは絶え間なく降ってくるのでフネにいたメイジ達総出で魔法を撃ち落とそうとした。

残った平民の空賊たちは消火活動をしフネの被害を少しでも減らそうとした。

そして火が粗方消された後残っていたメイジたちの精神力もほぼ尽きていた。

空賊たちはこれ以上の被害を恐れ逃げ出そうとした、だがそれは出来なかった。

フネはもう落ちかけていたのだ。

船内には穴が開きマストはズタボロになっておりもう航海を続けることが出来なくなっていた。

そして空賊たちは諦め投降しようと白旗を上げてきた。

だがその白旗は一瞬で燃えた。

この行為で空賊たちの生きる希望は打ち砕かれた。

向こうは自分たちを絶対に許さないのだと空賊たちはそう悟り、最後の意地を賭け総攻撃を仕掛けた。

だがその攻撃も虚しく終わりの一手が撃たれた。

「カっっっっっっ消す！！！！！！！！！！！！」

『決別の一撃（コルポ・ダッディオ）』

憤怒の炎がフネと、フネに乗っていた空賊たちを焼き、フネは沈んだ。

それの一部始終を見ていた貴族はこう語った。

『あれは魔法ではない、あれは怒りだ』

とそう語った。

————————————

浮遊島アリビオンへレッツゴ～（後書き）

後悔はしていません。
引き続きアイディアを募集しています。

オールド・オスマンとの接触

前回俺は不甲斐ない貴族（クズ）（オールド・オスマン）と一糞爺の代わりに空賊を討伐した。

うん、もう塵一つ残さずに。

その後フネに戻って行ったら皆から恐怖の視線を浴びせられたよ。

貴族なんかは俺を見た瞬間泡吹いて気絶したよ。

そして爺にはなんか興味を持ったような目で見られたよ。

まったく空賊をカっ消しただけなのになんでこのようなことになったのだろうか。

あぁ始祖ブリミル様よ、どうか迷える子羊を救って下さいませ・・・

なんてブリミル教なんて信じてないけど（笑）

だってさぁ前うちの村にいた神父なんかはろくに祈りもしないで酒ばっか飲んでる奴だったからな。

普通そんなところを見たら誰だって信仰心なくすでしょ？

オスマン「そこのお主、名をなんという。

（この者はいったい何者なんじゃ？使っていた魔法はスクウェア級の火力じゃが。）」

おっと爺に声を掛けられた、もうぎっくり腰は良いのかよ。

ＸＡＮ「・・・・・ＸＡＮＸＵＳ（ザンザス）・・・・」

何故か俺は喋る時、寡黙っぽくなるんだけどこれは何かの補正か？

てか俺喋った時に睨みつけちまったよ、生意気だと思われたか？

オスマン「ザンザスかいい名じゃの、ところで先ほどのあれはお前さんがやったのか？

（なんちゅう目をしてるんじゃい、一瞬殺気が見えたぞ・・・）」

ちっ、ばれていやがる、この爺ぎっくり腰で引きこもっていたのに何処で見てたんだ？

ＸＡＮ「・・・・・・・俺だったらどうする・・・・・」

オスマン「別に何もせぬと言っておろうに、見たところお前さん貴族ではなさそうじゃが・・・

（この格好から見ると貴族ではないだろう、では平民のメイジか？）」

ＸＡＮ「貴族しか魔法が使えないというわけでもない、俺は平民だ。」

俺が平民だ、と言った瞬間周りの貴族たちが威張りだしたな。

あ～～ほんとウザい、こいつら何様のつもりだっていうんだ、ドットのくせして。

オスマン「平民じゃったか、でもさっきの魔法は何じゃったのだろうかの。

儂は平民がこれほどまでに魔法を使えるとは思えんのじゃがな。

（ちょっと挑発でもしてみようかい、しかし本当に平民じゃったとはのう

世界にはこれほどの逸材が眠っておるのかの？）」

ＸＡＮ「父親が貴族だっただけだ、貴族だった父は気まぐれに母を犯し孕ませ俺が生まれた。

その後から何も連絡がないから捨てられたのだろう。」

あの父親、一発ぶん殴ってやりてぇぜ。

オスマン「ではお主は誰の師事も受けてこれほどまでのメイジになったのかの？
（いったい誰の師事を受けここまで育ったのじゃろうか、
これほどまでのメイジを育てたものならば魔法学院にも欲しいわい。）」

ＸＡＮ「俺に師はいねぇ、ほぼ独学だな。」

俺がそう言った時、周りがざわついた、そんなに珍しいか？爺もなんか唸って考え込んでいるし。

オスマン「お主は年は幾つじゃの？
（これほどのメイジが誰からも教えを受けずここまでとは・・・）」

爺声が震えてるぞ？

ＸＡＮ「八歳だが、文句あるか？ついでにランクはトライアングルだ。」

オスマン「八歳！！！トライアングルじゃと！！！！！
（八歳？！！八歳でトライアングルじゃと！！！！それも独学で！！！

なんちゅう才能の持ち主じゃ、八歳でトライアングルというのも稀なのに・・・）」

おろ？みんな唖然としている、爺なんかは口をあけてボー然としているし。

そんなにすごくないだろ別に、ただサバイバルしてりゃぁ上がるし。

オスマン「お主、儂の養子にならんか？」

ＸＡＮ「は？」

オリ魔法を作ろう！～高速機動魔法～

前回オスマンと話し合った結果何故か俺の息子になれぇ！的なことを言われた。

そのことで話し合った結果、十六歳、十六歳になったらオスマンの義子になることが決まった。

何故十六歳かというと俺を魔法学院に入らせたいからだそうだ。

俺としては別に入らなくてもいいがオスマンがどうしてもって言っていたので入ろうと思う。

だから後八年間で俺は一応火と風のスクエアメイジになろうと思う。

後ＸＡＮＸＵＳの技も全て覚えておかなければ、前々回の決別（コルボ・ダッデ）の一撃（イオ）、

は偶然成功したし、あの後もう一回やッたんだけど失敗したからさぁ。

後高速機動や、匣（ボックス）も試してないしね。

ついでにもう一つの零地点突破を使えるようにしとこうかな？

――――――

ーーー

ポケモンみたく何かを纏って動けばいいのではないか?!!

アクアジェットみたいに水を纏いながらの高速移動・・・・・・・・・・・・

これはいける!!!!後は何を纏うかだが・・・・・・これは憤怒の炎か?

それではダメだな、あれでは俺も焼ける・・・魔法でもダメだな・・・・・

魔法・・・始祖ブリミル・・・ブリミル教・・・聖戦・・・エルフ・・・先住魔法・・・精霊魔法!!

そうか精霊かっ!!!精霊ならば加護を受ければ焼けなくて済む!!!

だかしかし精霊とどうやって契約すれば・・・・・・そういえば俺にはあれがある!!!

発動ッッ!!!!究極の眼(ウロボロス・アイ)!!!!!!

フハハハハハハハハ!!!これがあれば精霊が見える!!!イコール契約できる!!!!

精霊が見えれば精霊魔法が使えると誰かが言っていたような気がする!!!!

よし!!さっそく契約ダァアア!!!!!!

・
・・
・・・
・・・・
・・・・・
・・・・・・
・・・・・・・デキねーよ！！

あいつ等なんなんだよ！！！ふわふわ浮きやがって！！！

こっちの話は聞きもしない！！浮いているだけ！！！

クソッタレェェエエエエエエエエエエ！！！

――――――――――――――――――――

俺は精霊と契約できず怒った。

そして怒りにまかせて暴れまわった結果・・・・・

精霊が言う事を聞いた、怪我の功名だぜ、やったね！

やっぱり知能が低い奴らには肉体言語やＯ☆ＨＡ☆ＮＡ☆ＳＨＩが効くようだ。

そして新しく出来た魔法の名は『鳳凰天駆』。

この魔法は、火火風＋精霊魔法・火のスクエアスペルだ。

これは炎を身に纏い空を高速飛行する魔法だ、威力は当たったら竜でも撃墜できそうな威力だった。

そして飛んでる時でも高威力の魔法を発動できる・・・火と風限定だけど・・・・

さらに憤怒の炎をプラスすることにより威力、機動力が共に跳ね上がる。

この名の由来は飛んだ時に鳳凰っぽくなり空を駆け巡ったから『鳳凰天駆』にした。

これで機動力に関してはいう事なしだろう。

次は守りの魔法でも作るか。

オリ魔法を作ろう！～高速機動魔法～（後書き）

‘トッシー’様意見を授けてくれてありがとうございます。
これからもオリ魔法や感想をお待ちしています。

オリ魔法を作ろう！～広範囲殲滅魔法～

前回俺は高速機動魔法『鳳凰天駆』を作った。

そして今回俺は広範囲殲滅魔法を創ろうと思う。

広範囲殲滅魔法。

それは大規模なもので一瞬にして大勢の敵にダメージを与える魔法。

このハルゲニアには広範囲殲滅魔法は数えるほどしかない。

そして数少ない広範囲殲滅魔法もスクエアスペルだったり、虚無魔法だったりする。

広範囲殲滅魔法は詠唱時間がとても長いし消費魔力もとても多い。

俺はまず詠唱時間の問題をクリアすることにした。

詠唱とはルーン文字を唱えること、そして系統魔法には絶対必要。

これは高度な呪文ほど詠唱時間が長くなっていく・・・

この詠唱を短くしてしまうと魔法の効果が薄くなってしまう・・・・・

なので詠唱を使わない精霊魔法にしようとしてみる。

なぜなら俺は精霊が見え精霊魔法が使えるからである！

・・・・・だが火の精霊と風の精霊としか契約が出来ないのだが・・・・・・・

と言うか周りには火の精霊以外寄りつかないし、偶に来るのが風の精霊だし・・・・・

そして俺の周りにいる火の精霊たちの他にいつも怒ったような顔をしている炎の精霊がいる。

何だろうこいつら、火の精霊の亜種か？それにしても怖い顔しているな。

それはもう憤怒の形相で・・・・・憤怒？・・・・・・・・

まさか、ね。まさかね。一回試してみようっと・・・・・・・・・

・・・・・・・・・

何じゃこりゃ？憤怒の炎の精霊バージョン？火の精霊の親戚かな？

憤怒『う〝お〝おい！！！！！！てめぇが主かぁ！！！！！！。』

ぬおっ！！いきなり何処からか声が！！！幽霊か？！！！！！

憤怒『誰が幽霊だ！！！！！俺は憤怒の精霊だ！！！！！！もう一度聞く俺の主はてめぇか！！！！！』

口の悪い精霊だなぁ、そして声もデカい。そしてウザい。

憤怒『聞いてんのかぁ！！！！！う〝お〝おおおおおい〝！！！！！！

憤怒『急に大声出すなよ！！お前は俺を生んだのかって聞いてんだよ！！！！！』

生み出した？あぁ憤怒の炎の時みたいに俺の手から出てたしな。

ＸＡＮ「・・・・・・あぁ、俺がお前を生み出した・・・・・・・・」

憤怒『それならさっさと契約だ！！！！早くしろ！！！！こっちは時間が迫ってるんだ！！！！』

いちいち癇に障る奴だ。

ＸＡＮ「・・・・・・・・・なぜ今頃出てきた、もっと早く出てこれたはずだが・・・・・・・」

憤怒『お前が俺たちの存在を正確に認知しなかったからだろうがぁあああああああ！！！！！
　さっさと認知して俺と契約しろぉおおおぉおおおおおおおおおおお！！！！！！！！！！！！！』

ＸＡＮ「・・・・・・・・・分かった、では始めようか・・・・・・・で、俺は何をすればいい？」

憤怒『俺らに名前を付けろ！！！それだけでいい！！！早くしてくれ！！！』

名前か考えどころだな、憤怒だからラースか？それともサタン？もしくはウルフ？

憤怒『あまり長く考えるな！！！早くしないと消えちまうんだよ！！！！』

ＸＡＮ「・・・ではウェルシュでどうだ、憤怒を表す生物はドラゴン、その上位種の名だ・・・・・」

憤怒『ウェルシュだな！！！！よし契約成功だ！！！！！これで消えなくて済む！！』

ＸＡＮ「・・・それは良かったな、そしてお前はいったい何者だ、ウェルシュ。」

ウェル『だから俺は憤怒の精霊ウェルシュだ。お前の憤怒の炎のおかげで俺は生まれた。』

ＸＡＮ「・・・ほうぅ・・・で、お前は火の精霊と何が違うんだ？見た目同じだろ・・・・」

ウェル『俺らをそこらの雑魚供と一緒にすんじゃねぇ。俺はあいつ等より遥かに格上だ。
まず第一に俺は火の精霊より火力が違う、彼奴らが千人で出せる炎を俺は一人で出せる。
そして次に速効性だ、俺らはお前が命じれば即座に燃えたり爆発する。
おまけに連鎖能力、俺らは他の憤怒の精霊が爆発をするとより強く爆発する。
連鎖のようにズガガガガガガガン！！！！！！っぽく。後それと同じように燃える。』

ＸＡＮ「・・・・・ふむ、それはすごいな。では、爆発しろ、」

ウェル『え？なんｄ「チュドーーーーン」グハァァァァァァァァァァ！！！！！！！！！！！！』

ＸＡＮ「ハッハッハッハッハッハッハッハッハッハ！！！！！！！！！！！！

ウェル『グギャアアア

ない。

変わってるところが有るとすれば連鎖性があるというとこだけで他があまり変わってない。

名前の由来は劇薬ニトログリセリンのように一気に爆発し連鎖反応が起こるからである。

フハハハハハハハ！！！！！！！この魔法があればほぼ敵無しと言えるだろう！！！！

この調子でどんどん作っていくぜ！！！！！オリ魔法！！！！！

オリ魔法を作ろう！～広範囲殲滅魔法～（後書き）

‘ポッポ’様意見を授けてくださりありがとうございます。
今回オリキャラが出てきましたその設定を書きました

ウェルシュ

憤怒の精霊の集合体

モデル・スクアーロにしようと思ったのに途中からわけわかんなくなった。

特徴・スクアーロが朱くなり常に怒りの表情を浮かべている。
　意外と強く、ＸＡＮＸＵＳの練習相手にもなる。

名前の由来
憤怒ードラゴンー朱い竜ーア・ドライグ・ゴッホーウェルシュドラゴン

ごちゃごちゃしてきたので設定１

名前　ＸＡＮＸＵＳ（ザンザス）

年齢　十二歳（今の時点で）

身長　１５９？

体重　４７？

性格　何かの補正で寡黙になる、漫画とは違い自分以外をカスだと思っていない。

外見　ＸＡＮＸＵＳのまんま。

武器　二丁拳銃（名前募集中）ボンゴレ七代目施用、死ぬ気弾無限。

杖　ボンゴレリング（大空）、予備としてｎｅｗヴァリアーリング（大空）、憤怒のリング（嵐）。

メイジランク　火　トライアングルの上、もう少しでスクエア

水　ラインの上

土　ようやくドット

風　トライアングルの中

精霊魔法　火と風と憤怒しか契約できない。

精神力　スクエアメイジの数十倍、まだまだ上昇中・・・

回復力　寝ればたいていの怪我が治り、精神力は半分以上回復する。

詠唱　以前と変わらず、トライアングルスペルを二秒で詠唱可能。

使える魔法

火　ファイアーボール　連射可能、三十発は連射できる。威力はあまりない

火火　フレイムボール　連射可能、二十発は連射できる。威力、地面が吹っ飛ぶ。

火火火　フレイムブラスト　火炎放射、射程１０ｍ。威力フレイムボールの五倍

火火　ファイアーウォール　高さ十ｍ、幅十ｍ、厚さ十ｍ。

水　コンデンセイション　以前と変わりない・・・・

水水　ヒーリング　以前の十倍効く。

水水　アクアウォール　高さ五メートル、幅五メートル、厚さ二メートル。

風　ウインド　依然と変わりない・・・・・

風風　エアハンマー　以前より発動が速くなった。

風風　エアスピアー　以前より貫通力が増した。

風風　エアカッター　岩でも切れる威力。

風風風　カッターウインド　エアカッターとエアスピアーとエアハンマーを合わせた威力

火火風　フレイムウインド　フレイムブラストの威力より少し下だが広範囲に攻撃ができる。

火火水　ホットスチーム　逃走用、煙の量が多くなっている。

水水風　ウィンディ・アイシクル　タバサのより劣る。

火火風＋精霊火　鳳凰天駆　鳳凰のように天を駆け巡る・・・

精霊憤怒＋憤怒＋憤怒＋憤怒　ニトロ・チェーン　連鎖爆発を引き起こす。

能力

憤怒の炎　以前より熱量、炎圧が爆発的に上昇。銃の腕はプロ顔負けになって来てる。

超直感　半径三キロ以内の事ならほとんど分かる、自分に危機が訪れると自動で発動する。

究極の眼　以前より鮮明に見え、１０００メートル先まで見通せる。見切りがさらに鋭くなった

リング　出せる炎の量が上昇。

匣　まだ使ってない・・・・・一つは近日使用する。

技

怒りの暴発（スコッピオ・ディーラ）

憤怒の炎を連射することにより超極太のレーザーを発射する。
威力はフネに穴を開け、そのまま貫く程度。
これは完璧に使え、十八番になっている

炎の鉄槌（マルテーロ・ディ・フィアンマ）

憤怒の炎を連射することにより炎を扇状に直線に放ち攻撃する
威力は怒りの暴発の1，5倍
これは完璧とは言えないが使える。

炎の蕾（ボッチョーロ・ディ・フィアンマ）

対象の周囲を高速起動しながら憤怒の炎を連射する。
ただ今練習中

決別の一撃（コルポ・ダッディオ）

憤怒の炎をありったけ込めた巨大な塊を発射し、着弾時に半端ない威力の爆発が起こる。
威力は未完成の状態で船を消し炭に変える。
ただ今練習中

零地点突破‘改‘

沢田綱吉が編み出した技、修行により使えるようになった。
原作では炎だがここでは魔法を吸い取り自分の魔力とする。
完全に使いこなせる。

ファイアーラース

ファイアーボールに憤怒の炎が混じった魔法。
その威力はファイアーボールの数十倍。

フレイムラース

フレイムボールに憤怒の炎が混じった魔法
その威力はフレイムボールの数十倍。

ごちゃごちゃしてきたので設定1（後書き）

拳銃の名前を募集しています。
あと魔法もまだまだ募集中です。
※少し修正を加えます。

アルビオンでのクエスト～亜人を殲滅せよ～

オスマンの俺の息子になれぇ！！発言から四年が過ぎた・・・・・

前回と前々回でオリ魔法を完成させた俺は今森の奥深くに潜入しオーク鬼を探している。

何故探してるのかというと生活必需品が欲しくなったからだ。

森の中でも生活ができるけど、偶に生活必需品が欲しくなる。

だが俺が一文無し、そこで村の人たちからのクエスト（お願い）を受け、金を稼ごうと思う。

最初の依頼はオーク鬼の殲滅（殲滅と書いて討伐と読む）、どこにでもいるなオーク鬼は。

せいぜい十匹ぐらいしかいない群れを殲滅することなど十二歳になった俺には朝飯前だ。

設定１にも十二歳って書いてあるし、それ相応に実力もあるし。

ウェル『何メタ発言してんだよ、良いからさっさと探せ。』

ＸＡＮ「・・・・・黙れ、カス霊・・・・・・・・・」

はいはい探してるよ、お前も分裂したりして探し回れよ。

ＸＡＮ「・・・・・お前は分裂できるだろ・・・・その方が効率がいい・・・やれ・・・・・・」

ウェル『分裂は疲れるから嫌だ、何より面倒くせぇ、ニートになりたい。』

ＸＡＮ「怒りの暴発（スコッピオ・ディーラ）」

ズガガガガガガガガッガガガガガアガン！！！

ーーー

オーク鬼達は業火にさらされ断末魔を上げ絶命していった。
ＸＡＮＸＵＳがオーク鬼の群れを殲滅するのには五分もかからなかった・・・・・
「・・・・・カスどもめ・・・・・」
ＸＡＮＸＵＳがそう言い捨てその場から去ろうとする。だがその時っ！
「キシャアアアアアアアアアア！！！

ズガガガガガッガガガガガガガガンンン！！！

ドゴォオオオオオオオオン！！！

そうこう言っている内にｍｙｈｏｍｅに帰り着いた。

え？木の上とかで寝泊まりしてるんじゃないかって？

ノーノー違いマース！ちゃんとした家に居ます。

神様がくれた匣の中の一つが家になったノデース！！

その名は、匣庭、、高さ１０ｍ、横１０ｍ、奥行き１０メートルの立方体の家、全属性の炎で起動可能。

晴れの炎を注入した場合はその中に入ってると細胞が活性化し美容効果や怪我が早く治る。

雨の炎を注入した場合は鎮静効果があり痛みが和らぐ。

嵐の炎を注入した場合は家の壁に嵐の炎がコーティングされ、触れたものを分解させる。

雷の炎を注入した場合は壁が滅茶苦茶硬くなる。

雲の炎を注入した場合は部屋の数がどんどん増殖する。

霧の炎を注入した場合はその周辺に幻覚を掛け家に近づけないようにする。

そして大空の炎を注入した場合は家の中が超快適空間になる、

これは外が暑かろうが寒かろうが家の中では快適な空間になるのだ！！！

俺の場合憤怒の炎を注入しているから大空と嵐の炎が注入されどちらの効果も得られるようになる！

俺の家は俺と人間以外の生き物が入ろうとすると嵐の炎がその身を分解する、

そして尚且つ家の中は超快適空間！！！

欠点は一日に一回は炎を注入することだけどね・・・

それじゃ家の中に入ろうとするか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・あれ誰か入った跡があるぞ・・・・

空き巣か？！！とっちめてカッっっっ消す！！！！！！！

俺は賊に気づかれないように忍び足で家の中に入る・・・・・・

どうやら足跡は寝室に続いている・・・・・

そして犯人は俺のベットの中で爆睡してやがる！！！それも二人！！！！

怒り俺は犯人の顔を見ようと布団にゆっくり近づく・・・・・・

・・・・・・・・・

・・・・・・
・・・・・・・
・・・・・・・・
・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・緑髪の女の子と金髪の女の子が寄り添うように寝ていた・・・・・・・・・・

ここ俺んちだよなと思い一回家に出てみる。

・・・確かに俺んちだ・・・・・・

もう一回顔を見る・・・・結構かわいい・・・・・・はっ！！何も言ってるんだ俺は！！！

とりあえず起きてから話を聞くか・・・・・俺は何処で寝ればいいんだ・・・・

ウェル『床じゃね？』

ＸＡＮ「黙れ」

アルビオンでのクエスト～亜人を殲滅せよ～（後書き）

銃の名前の募集は候補が上がってきたので中止となります。
魔法はまだまだ募集中です。

俺はロリコンではない・・・・・そう信じたい・・・・・・・（前書き）

主人公の原作知識はほぼ皆無です。
覚えてるのは戦争ぐらいです。
ちなみに主人公は精霊と念話で話ができます。

俺はロリコンではない・・・・・そう信じたい・・・・・・

前回自分の家に帰った俺は何故か俺のベットで寝ていた少女二人に度肝を抜かされた・・・・

さてこの少女二人組どうしよう

1・シカト

2・襲う

3・たたき起こす

4・起きるまで待つ

5・決別（コルボ・ダッディオ）の一撃で消し飛ばす。

・・・・・さすがに2と5はダメだろう・・・やった場合スゲェ批判が来るだろう・・・・

第一俺はロリコンじゃねぇ・・・・と信じたい・・・・・・

3はなんかちょっと良心に引っかかるな、第一俺は紳士だ。

変態と言う名の紳士ではない！！！

1のシカトはちょっとねぇ・・・・・

結果的に４の起きるまで待つということにしよう・・・

ウェル『ヘタレめ、襲っちまえ』

黙れカス霊！変態かお前は！！！

ウェル『俺は変態じゃねぇ、・・・・・おいこの金髪人間じゃねぇぞ。』

はぁ？人間じゃねぇ？どういう意味だ？？

ウェル『こいつから精霊の気配が出ているんだ、第一こいつ耳がなげぇぞ。』

耳が長いってエルフか？！あれ・・金髪・・エルフ・・・アルビオン・・・！分かった！！

ウェル『何が分かったんだ？』

ティファニアだ！！アルビオンの虚無！モード大公とエルフの間にできた娘！！

ウェル『へ～～～このチンチクリンがねぇ・・・』

何故ここで原作キャラが・・・・・・あ、あれかサウスゴータ家が没落したのか・・・

ということは隣にいるのはマチルダか・・・俺と同じくらいの年だな・・・

確かあの後はウエストウッド村に行くんだったような・・・・・

ウエストウッド村って俺がクエスト（依頼）を受けた村だな、

そういやあそこにはガキとほぼ死ぬ間際の爺ぐらいしかいなかったが。

その途中で疲れ果ててそこに偶然俺の家があり寝ていたと・・・・・

ウェル『こいつらもなかなか面白れぇ人生を送ってんだな。』

面白いってお前・・・・・

ウェルシュの性格がよく分からない・・・・・

まぁこいつらが起きるまで修行でもしてっかな～～おいカス霊手伝え。

ウェル『精霊使いが荒いぜ、まったく・・・・・』

――――――

オオオオオオ！！！

ウェルシュは不可視の風を完璧に避ける。

ＸＡＮ「火火火火のスクエアスペル！！！！！！！レヴァンテイン！！！！！！！」

ＸＡＮＸＵＳが新しいスペルを唱える。

それは二つ首を持つ炎の竜となりウェルシュに襲いかかる。

ウェルシュ『ウオオオオオオオオ！！！！！！！！・・・あれ俺は今まで・・・・・』

ここで死ぬ気弾の効力が消える。

そしてレヴァンテインは止まっているウェルシュに直撃する

ウェルシュ『ってギャアアアアアアアアアアアアアア！！！！！！！！！！！！！』

ウェルシュは断末魔の声を上げながら燃えて行った・・・・・

ＸＡＮ「フハハハ

俺はロリコンじゃない俺はロリコンじゃない俺はロリコンじゃない

「俺の右手が真っ赤に燃える！！！！！！！ゴッドフィンガーーーー！！！！！！！」

「もっと熱くなれよ！！！！お前ならできる！！！！ウオオオオオオオオオオ！！！！！！！！！！！！！」

「フハハハハハハハ我に従ったら世界の半分をやろう。」

「ぶるぁぁぁ

ーーー

???「あの〜〜〜〜〜・・・・・・・・・」

XAN「アゞン」

???「ヒィッ!!!!!」

あ、やべ怖がらせてしまった・・・今度は微笑みながら・・・・・

XAN「や、やぁ・・・・・」

???「ふ、ふぇ〜〜〜〜〜ん!!!!!!!」

これは不味い・・・俺の顔がマフィアだってこと忘れてた・・・・・

???「テファに何してんだいっ!!!!!!」

ガン!!!!

俺の頭に思いっきり蹴りが決まった・・・・糞痛てぇ・・・・・

ＸＡＮ「・・・・・ア゛ァン！！！」

？？？「ふぇえええええええん！！！！！！！！」

？？？「怖くなんかないんだからね！！！ほんとだからね！！！（ガタガタブルブル）」

何この混沌（カオス）、ウェルシュどうしてこうなった・・・・

ウェル『リア充、爆発しろ、もげろ』

どうしてこうなった・・・・・・・・・・・・

俺はロリコンではない・・・・・そう信じたい・・・・・・・（後書き）

魔法の募集は続いています。
多少時間軸がおかしいところが有ったので直しました。

ティファニア&マチルダとの接触（前書き）

結構難産でした・・・
年齢を乗せると・・・
ＸＡＮＸＵＳ十二才
マチルダ十一歳
ティファニア六歳です・・・
そして今回は超超超ご都合主義です。

ティファニア&マチルダとの接触

前回俺はマチルダとティファニアを泣かせた、今ようやく泣き止んだ。

マチルダは泣きやんだが、ティファニアは震えてる・・・俺の顔が原因か・・・・

ＸＡＮ「・・・・・何故お前らは俺の家に居た？・・・・・・・」

マチルダ「・・・・・森を歩いてて・・・疲れちゃったから・・・・そのぉ・・・・・」

ＸＡＮ「・・・俺の家で休んでいてそのまま寝たと・・・・・・」

マチルダ「はい・・そうです・・・ごめんなさいぃ・・・・・うぅ・・・」

やべぇまたおれ泣かしそうじゃん。

ＸＡＮ「・・・・・・・・で、お前らは何処から来たんだ？・・・・・

・」

マチルダ「えっと・・・・そのぉ・・・・・この付近の村・・・」

ＸＡＮ「・・・・・嘘だな・・・この付近の村にお前らみたいなのは居ない・・・・・・」

マチルダ「うぅぅぅ・・・・・わ、私は・・・・・・・」

ＸＡＮ「・・・・・私は・・・・なんだ？・・・・・・」

マチルダ「私は貴族よ！！！それもこの付近を治めるサウスゴーダ家の長女よ！！！！
　私はラインメイジだ！！私たちに手を出すと酷い目にあうわよ！！！！！」

杖を出して胸を張りながらそうマチルダは言い放った。

・・・迫力を出して言っているつもりなんだろうが最後の方震えていたし身体もがくがく震えてるし。

はっきり言って全く怖くもなんともない、むしろ可愛い。そして俺はスクエアメイジ。

ＸＡＮ「・・・・・別に怖くもなんともないんだが・・・・・・・・・」

マチルダ「うぅぅうううう・・・・・・ヒックヒック・・・・・・」

やべまた泣かしちまった、誰か泣かさずに人と話せる方法は無いのか！！！

ＸＡＮ「・・・泣くな、泣くな、俺が気まずくなる・・・・・」

テファ「マチルダお姉ちゃんを泣かさないで！！！！！うぇえええええん！！！！！！！！！」

マチルダ「！！！テファを泣かせるな！！！ふぇえええええええん！！！！！！！」

二人とも泣きながら怒ってる、そしてお互いを庇いあっている。

何とも美しい姉妹愛だこと・・・・・虚しくなってくる・・・・・・・

なぁウェルシュ、お前ならこの状況をどうする・・・・・・・

ウェル『笑えばいいよ・・・笑えば・・・・・・』

ＸＡＮ「・・・・・・・ニゴッ・・・・・・・・・・」

「「びぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇんんんんん！！！！！！！！！！！！！」」

笑っても泣くぞ・・・・

ウェル『頑張れ、ＸＡＮＸＵＳ超頑張れ・・・・』

ーーー

数十分後俺があの手この手を使いようやく泣き止ませた・・・・

あのカス霊・・・後で決別(コルボ・ダッディオ)の一撃数連発の刑だな・・・・・

XAN「・・・・・で、お前らの名前は何だ?そして何処から来た?・・・・」

マチルダ「・・・私の名前はマチルダ、土のラインメイジだ・・・・・」

テファ「・・・ティファニア・・・・・」

マチルダとティファニアか、予想通りだな。

XAN「・・・・・で何処から来た?・・・・・」

マチルダ「・・・・・絶対言わなくちゃダメかい?・・・・」

XAN「・・・・話したくないならそれで良い・・・・・」

マチルダ「ありがとう、助かるよ。・・・それでちょっといいかい?」

ＸＡＮ「・・・・・何だ？・・・・・・・・」

マチルダ「あたし達の事を話したんだからさぁ・・・名前とかを教えてくれないかい？・・・」

ＸＡＮ「・・・自己紹介がまだだったな・・・俺はＸＡＮＸＵＳ（ザンザス）。火のスクエアメイジだ、この森で修行をしている・・・・・・・」

マチルダ「スクエアメイジ・・・まさか貴族かいっ！！！」

ＸＡＮ「・・・貴族ではない、唯の平民メイジだ・・・・・」

マチルダ「平民メイジでスクエアかい・・・どんだけ才能を持っているんだよ・・・・」

ＸＡＮ「・・死ぬほど修行をしたからな・・ところでお前、ティファニアと言ったな・・・・・」

テファ「ふぇ！！・・・・な、なんでしょうか？・・・・・・」

ＸＡＮ「・・・・・お前、エルフだろ・・・・・」

テファ「え、何でそれを・・・あ！」

マチルダ「っ！！！！逃げなテファ！！！こいつはあたしが・・・・・」

臨戦態勢じゃないか、マチルダ。別に捕って食おうとしないって・・・・

ＸＡＮ「・・・・騒ぐな・・・別にお前がエルフだろうと俺は差別はしない・・・・・」

マチルダ「・・・・・・・・・本当かい？・・・・・」

ＸＡＮ「・・・・・本当だ・・・始祖に誓う・・・・・」

マチルダ「・・・分かった、信じるよ、どうせあんたには勝てないしね。

でも何でテファがエルフだって分かった？フードはとって見せてないけど・・・」

ＸＡＮ「簡単なことだ・・・ウェルシュ出てこい！！！」

ウェルシュ『呼ばれて飛び出てじゃじゃじゃじゃのじゃ～～～ん、って何を言わせる！！！』

ＸＡＮ「・・・・・お前が勝手に言ったんだろ・・どうした固まって？・・・」

二人ともウェルシュが出てきて固まっている・・・

マチルダはともかくテファはそうでもないだろうに・・・・・・

ＸＡＮ「・・・何を唖然としている・・・マチルダはともかくティファニアは見慣れているだろう」

テファ「いえ・・・こんな精霊見たことがなかったので・・・・・」

マチルダ「何だい此奴は・・・・・・精霊？水の精霊みたいなもんかい？」

ＸＡＮ「・・・まぁそんなところだ・・・こいつは俺が契約精霊（したがえてる）だ。・・・・俺は精霊が見え、そして契約できる・・・・・・

・・・ティファニアからは精霊の気配が感じられた・・・エルフと同格ぐらいに・・・」

マチルダ「なるほどそういう事かい、エルフより精霊が使えればエルフなんて怖くないからね。
　　でもテファはエルフじゃなくてハーフエルフなんだ・・そのせいで城から追われ・・・」

ＸＡＮ「・・・・なるほど・・・大方何処かの貴族がエルフを妾にしそれがばれて・・・・
　　追われの身になったか・・・・随分と大変な目にあったのだな・・・・」

マチルダ「あぁそうだよその通りだ・・・なぁウエストウッド村でもエルフの事は知られてるのか？」

ＸＡＮ「・・・・・あまり知られてない・・・なにせド田舎だからな・・・・・・」

マチルダ「そうかい・・・なら良いんだ・・・」

ＸＡＮ「・・・それでお前らはどうする？・・・あの村に住むのか？・・・・
　　あの村はもうじき無くなる・・・あそこには子供と病気の

爺ぐらいしかいないからな・・・」

マチルダ「テファはあそこに住まわすよ・・・」

ＸＡＮ「・・・・お前はどうする？・・・・・」

マチルダ「あたしは盗賊にでもなってテファの生活費を稼ぐよ・・・・」

テファ「お姉ちゃん！！そんなことしちゃダメだよ！！一緒に暮らそうよ！！！」

ＸＡＮ「・・・・・俺もそれには反対だな・・・・・」

マチルダ「だって・・だってそうするしか手段はないんだよ！！！！そうするしかテファは・・・・・・」

テファ「マチルダお姉ちゃん・・・・」

ＸＡＮ「・・・・俺はトリステインに知人がいる・・・・俺がその人に頼んでその人の養子になるという方法もある・

・俺もその人の養子だがな・・」

その人とはオールド・オスマンである。

マチルダ「・・・そうしたいのはありがたいんだけど・・・でも無理だ・・・・

テファの耳をどうにかしないと・・・何処へ行ってもそれで台無しになる・・・・」

テファ「うぅぅ・・・・・・・・・・・・」

耳ねぇ・・・確かにそれは目立つ・・・

何とかならないものかな・・・・・調和の炎と分解の炎を使えば何とかなるか?!!

XAN「・・・一つだけ・・・方法がある・・・・」

テファ「え?!!!!本当!!!!」

マチルダ「!!どんな方法だい!!!」

ＸＡＮ「・・・・・だがこの方法は成功するかどうか分からない・・・・それでもやるか？・・・・・・」

マチルダ「それでも！！テファが苦しめられずに済むなら！！！！！」

テファ「お願いします！！その方法を教えてください！！！！」

そこまで言われちゃ断れないな・・・・

ＸＡＮ「・・・分かった・・その方法は俺の調和の炎と分解の炎を使う・・・・・」

テファ「調和？分解？」

マチルダ「炎でどうするんだい？！！！」

俺の作戦では分解の炎でエルフの遺伝子情報を耳のみ分解し、

その後調和の炎で分解した分を調和させるという荒業だ。

ＸＡＮ「・・・俺の魔法を使い・・・ティファニアの耳の遺伝子情

報からエルフのみを分解し・・・・
・・・調和の炎で人間の形にする・・・・・・
かなり危険な方法だが・・・・やるかやらないのはティファニアの自由だ・・・・」

マチルダ「それでテファが助かるなら！！・・・・・テファはどうする・・・・」

テファ「私は・・・・・お願いします！！！どうか私の耳を人間の耳にしてください！！！」

ＸＡＮ「・・・ティファニア達の‘覚悟’よく分かった・・・・・・それでは・・・・・・・・」

テファ「うん・・・分かった・・・・・・・」

マチルダ「テファ！頑張るんだよ！！！！！」

――――――

二時間後・・・

何故か俺の家に同居している？いったいなぜだ？？？？？？？

ウェル『リア充、爆発しろ！！！！！』

ＸＡＮ「決別（コルボ・ダッディオ）の一撃」

ウェル『グギャアアア

ティファニア&マチルダとの接触（後書き）

グダグダですね、今回。
このような駄文を見ていただき誠にありがとうございます。
魔法も感想もどんどん下さい、批判は少し勘弁してください。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5302z/

憤怒の使い魔

2011年12月25日17時46分発行